

【様式①】令和6年度 学校評価書(幼稚園)

園名 岐阜市立加納幼稚園  
園長名 藤井佐由美

市の重点課題	園の重点項目	自己評価	達成状況	改善の方向
<p>希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成</p>	<p>・子どもの心がときめく瞬間(とき)に寄り添う教育を推進し、知的好奇心や探究心を育むための環境構成や援助のあり方を明確にする。 ・実体験重視を前提に、ICTの活用を推進し、子どもの興味関心を深めるツールとしての充実を図り、デジタル・シティズンシップ教育を推進して、豊かな保育実践を構築する。 ・園全体の協力体制のもと、一人一人が充実感をもって過ごし、自己発揮し、自分や仲間の良さを認め合う関係作りを努める。 ・身近にいる生き物に触れる中で、生命の神秘や不思議に気づき、徐々に大切にしようとする力を育む。</p>	<p>A</p>	<p>・2024年度ソーニール幼児教育支援プログラム保育実践論文において、本園の教育が最優秀園(全国1位)に選ばれた。チョウとの関わりを通して、子どもたちの好奇心や探究心の高まりを、「集団」と「個」の観点から分析的にまとめたことや「豊かな感性と創造性の芽生えの高まり」と「生き物への興味・関心の高まり」という2軸で段階的に整理し、独自の表現と記録と対応させながらまとめた点が高く評価された。 ・子どもたちと遊ぶ中で、子どもたちの興味関心を探ったり、遊びのどこに面白さを感じているのかを把握するように努めたりした。また、遊びを通して経験してほしいことや、経験できることよいことを考えながら環境構成をしたり、一人一人に対しての願いや、付くよい力を考えながら接したり、援助したりしてきた。それにより、子どもたちの好奇心や探究心の深まりが見られた。 ・ICTの活用では、年長児がチョウの成長の過程を写真で撮ったり、自分がこだわって作りたいたの画像を検索したりするなど、探究するためのツールとして定着した。また、香川県の城崎こども園とオンライン交流を行い、互いの園や遊びを紹介した。その中で、瀬戸大橋に興味をもった年長児が空き箱や牛乳パックを使いながら再現するなど遊びにつながっていた。教師もタブレットでチョウの変態の様子を撮影したり、踊りの動画や音楽を流したりして運動会やクリスマス会の雰囲気作りをするなど、日常の活用方法を工夫することで遊びや生活が豊かになった。 ・教師が子どもの思いを受け止めることにより、安心して自己発揮して過ごせるようになった。また、こども会議等の対話を大切にすることにより、自分の思いを表現したり、友達に聞いてもらえたりする喜びを感じ、自分ごととして考え、思いやる心が育ってきている。 ・環境を整えたり、触れる機会を保障したりすることにより、生き物への興味を示す子が増え、虫を中心に飼育し、命ある物への関わり方を学んでいる。例えば、清水川で魚を捕って保育室で育てたり、バタフライガーデンを作って青虫やチョウの観察をしたりして、ハブニングや死に直面しながら、その原因を考えたり、解決方法を試したり、工夫したりすることを通して、生き物を慈しむ心や命の神秘を感じたりする姿につながった。</p>	<p>改善の方向</p>
<p>あたたかさや働きがいにあふれる園づくり</p>	<p>・すべての職員が主体的に、保育を展開するための感性、人間力の向上を図り、自分なりの意見をもち、伝え合える集団作りを努める。 ・教師一人一人が持ち味を生かした役割分担と、自主性を育成し、遊びを広げ深める教育実践を推進する。</p>	<p>A</p>	<p>・子どもを真ん中において行事や生活を行えるよう心掛け、子どもたちに問いかけたり、一緒に考えたりする中で、教師自身も心を動かし、生活を共に創り出す楽しさにつながった。 ・研究会では他教諭との話し合いの中で、子どもたちの発達や実態に合わせた援助や環境構成について、多面的な視点から学ぶことで、すぐに保育に生かすことができ、子どもの育ちにつながった。 ・それぞれの職員が担当業務を中心に責任を決め、優先順位をつけ、効率的に業務を進めることができた。 ・よりよい取り組みを職員間で共有することにより、相互作用が高まり、どのクラスも保育の質が高まった。 ・教師の持ち味を活かし、ICTの豊かな活用や子どもの必要感に合わせた野菜・草花の栽培、またスラックライン等子どもたちの興味を広げるような運動遊びの紹介等を率先して子どもたちと楽しむことを通じて、子どもたちにも楽しい雰囲気広がりが、進んで遊びに取り入れる姿につながった。</p>	<p></p>
<p>全教職員の共通理解・共通行動による指導体制の確立</p>	<p>・園長のリーダーシップのもと、教頭・主任が中核となり、全職員が参画するとともに、各担当が幼児理解に努め、意図性を発揮することにより、共主体の保育の充実を図る。 ・7年目を迎えるコミスクの組織を活用し、地域力を生かした行事や教育活動の工夫を図り、発信する。 ・子どもモノづくりや岐阜市の良さに対する興味関心から、問いや願いに対して気づきや発見、試行錯誤につながるよう、岐南工業高等学校や岐阜県美術館、岐阜市科学館、岐阜市環境保全課等と連携を図り、教育活動の充実につなげる。</p>	<p>A</p>	<p>・加納小学校との幼小連携・接続、架け橋期カリキュラムや探究を軸とした指導計画の作成等を取り組んだ。互いの教育を参観したり、事後に意見交流をしたりすることにより、互いの大切にしていることについて理解することにつながり、継続的な交流を行うことができた。 ・特別な配慮を必要とする子どもに対して個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用したり、園内で共通理解したりすることで支援が必要な子どもの実態に合った援助ができた。また、一人一人が楽しく感じよう援助と、それぞれの好きなことや得意なことを生かせるよう遊びや環境の構成を考えた。 ・担任とサポーター、保護者等との打ち合わせや日常的なコミュニケーションを通して、園行事やクラス活動のねらいや意図を共通理解することで、子どもに一貫した援助ができ、保護者と子どもの具体的な成長を喜び合えた。 ・文献を読んだり、自主研修に参加したりすることを通して、自身の保育に対する考えを広げ、深めることができた。 ・コミスクを活用し、岐南工業高等学校との交流を通して、モノづくりの楽しさを味わい、自分の遊びがさらに楽しいものになっていくことを実感することができた。また、その他、岐阜市科学館やリリーシアター岐阜、岐阜県美術館、環境保全課、名和昆虫博物館等の施設やお茶の会、リトミック、音楽鑑賞会、お話の会等地域人材を生かした活動の中で、人と関わる温かさを感じたり、川や魚などの専門的な知識に触れ、興味・関心が高まり主体的に遊び込む姿につながった。</p>	<p>・加納小学校との幼小架け橋期カリキュラムや探究を軸にした指導計画を作成し、令和7年度は実践しながら、幼小連携推進会議を定期的に行い、加筆修正する。</p>
<p>家庭・地域に開かれた園づくりの推進</p>	<p>・園の教育方針や子どもの育ちを保護者・地域・市民に対し、画像や動画を活用し、積極的な情報発信に努める。 ・園の教育活動について、教職員や保護者、学校運営協議会などによる学校評価を実施・公表し、幼稚園経営の改善に生かす。 ・地域との関わり合いにより、自分が大切にされていることに気づき、安心、安定感をもって、相手を思いやる気持ちを育む。</p>	<p>B</p>	<p>・YouTube、Facebook、LINE、Xでの動画配信、そしてクラスごとに毎週1回はホームページ更新を行った。その際に、子どもたちの遊びを紹介するだけでなく、その遊びによって何を願っているのか、どんな力が付いたのかや伝わるよう作成することを心掛けた。それにより、「遊びの中の学び」を保護者、地域等に広く発信できた。また、保護者の迷途の際、子どもの育ちや遊びの姿、心の動きなどを具体的に伝えることができた。それにより、保護者が安心して園に預けたり、家庭で園の遊びの続きをしたり、話題にしたりする姿につながり、家庭教育力が向上した。 ・京都大学総合博物館 塩瀬先生の講演会や園長講話、加納小学校 岩佐校長先生の講話等により、子育ての大切さや考え方を発信したり、半日幼稚園の先生体験をする保育参加(母親中心)、月1回程度のおじさんと遊ぶ(父親中心)、年1回の有志の父親企画によるおじさんと遊ぶ会等、共に子育てを楽しむ機会を提供することにより、幼稚園の教育内容の理解につながった。 ・4、5歳児に行っている性教育を保護者にも参加していただけるようにし、保健指導の実態を伝えることができた。その他に、保護者向けの図書貸し出しを行うことにより、季節や発達に合わせたお話を家庭で観る機会をもつことができた。 ・保護者、地域、市民からの問い合わせや相談に応じ、必要であれば上司に相談しながら迅速かつ丁寧に対応することができた。</p>	<p>・PR活動を行い、本園の教育について周知は広がっているが、預かり保育の時間やバスの有無等、ハード面の拡充について行政と連携しながら実現していき、ことにより、様々な保護者のニーズに応えられるようになる。</p>
<p>教育環境と幼稚園財務環境の整備及び効果的な活用</p>	<p>・感染症、熱中症など、子どもが安全に過ごせるための健康管理を養護教諭を中心に啓発・実践する。また、子どもたちが自分の体の大切さを考えたり、気づけたりする機会を設け、よりよい対応や生活の仕方を身につけていく。 ・危機管理マニュアルや異常事象リスク回避の個別票などを定期的な研修を行いながら職員に周知徹底し、危機管理意識の向上を図るとともに活用し、リスクの回避に努める。また、様々な事態を想定し、子ども、職員、危機管理の意識を高める。 ・備品、教材購入の際は、目的を明確にし、取り扱いが適正であるかを確認する。マニュアルに基づき、財務や納入金などの取り扱い、支払い期限など複数で確認し、適正に実施する。</p>	<p>A</p>	<p>・養護教諭による毎月1～2回の保健指導を通して、子どもが安全に過ごせる健康管理について伝えることで、子どもが手洗い・うがい、歯磨き等、健康について意識するようになり、進んで行うようになった。 ・危険な行為については、なぜ危険なのかということ子どもに問いかけたり、子どもが自分ごととして考える機会を設けたりしながら、自身の危機管理能力が身に付くよう努めたことで、子ども達同士で遊び方を考えたり、伝えたりする姿につながった。 ・子どもも教師も、事前告知のない命を守る訓練を複数回実施することで、それぞれが臨機応変に考えて動く機会になり、新たな気づきが生まれた。その後、職員間やクラスで話し合うことで、子どもも教師も、自分の命を守る行動について考え、想定外を可能な限り想定内にてできるように具現化した。9月には、加納小学校との合同命を守る訓練を実施し、南海トラフ地震を踏まえた行動を確認することができた。 ・幼稚園で扱う公金の取り扱いや物品受け取りの流れなど、職員間で繰り返し研修を行うことで計画的かつ適正に事務執行ができた。</p>	<p>・命を守る訓練では、教師自身がいろいろなパターンでの非常事態を考えて、その場合どうするかを考えながら生活できるようにし、更に危機管理意識を高める。</p>